

山梨県におけるブドウ晩腐病菌の菌種および効果的な薬剤の防除方法

○鶴田 茜¹、鷹野公嗣²、村上芳照¹、鈴木美奈子²、内田一秀³
(1：果樹試験場 2：中北農務事務所 3：農業技術課)

背景と目的

- ブドウ晩腐病は糸状菌による病害で、本病による減収が大きな問題となっている
- 本病の病原菌には2つの種複合体があり、それぞれの複合体に様々な菌種が存在する
- 菌種により薬剤に対する感受性が異なる可能性がある



ブドウ晩腐病



病原菌の胞子

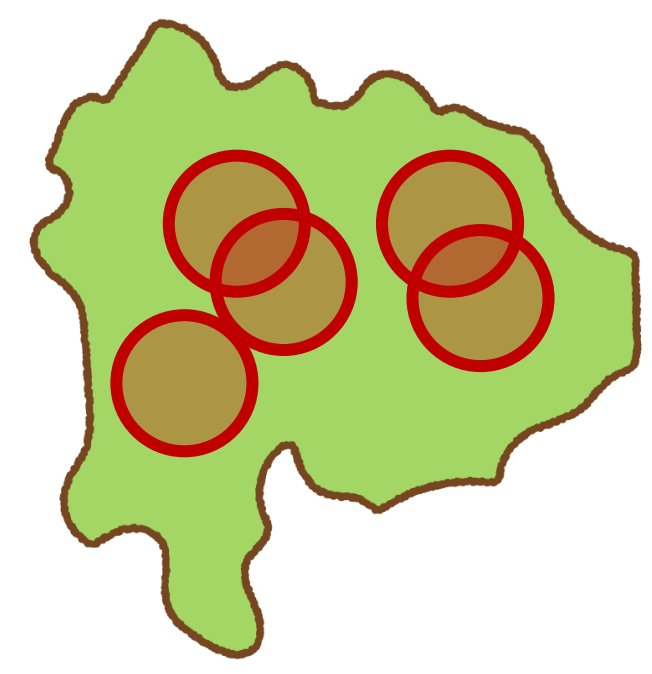
■県内のブドウ晩腐病菌の菌種を同定し、効果的な薬剤の防除方法を検討する

- 1：県内のブドウ晩腐病菌の菌種同定
- 2：有効薬剤の選抜
- 3：薬剤散布時期の検討

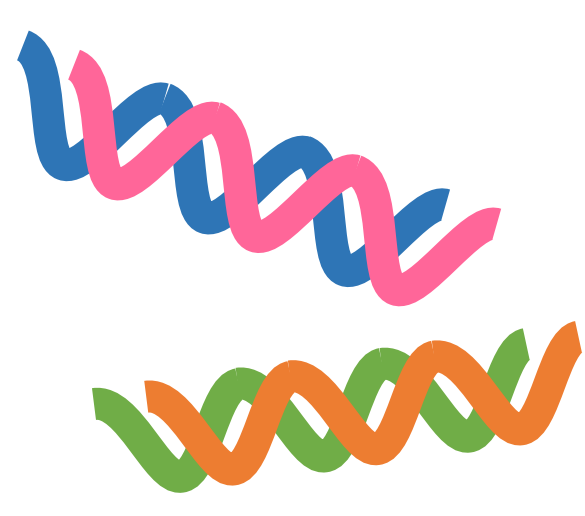
色々な菌種があるが、主な菌種は何だろう？
1番効く薬剤は何だろう？



1 ブドウ晩腐病菌の菌種同定



県下各地からブドウ
晩腐病菌214菌株を収集

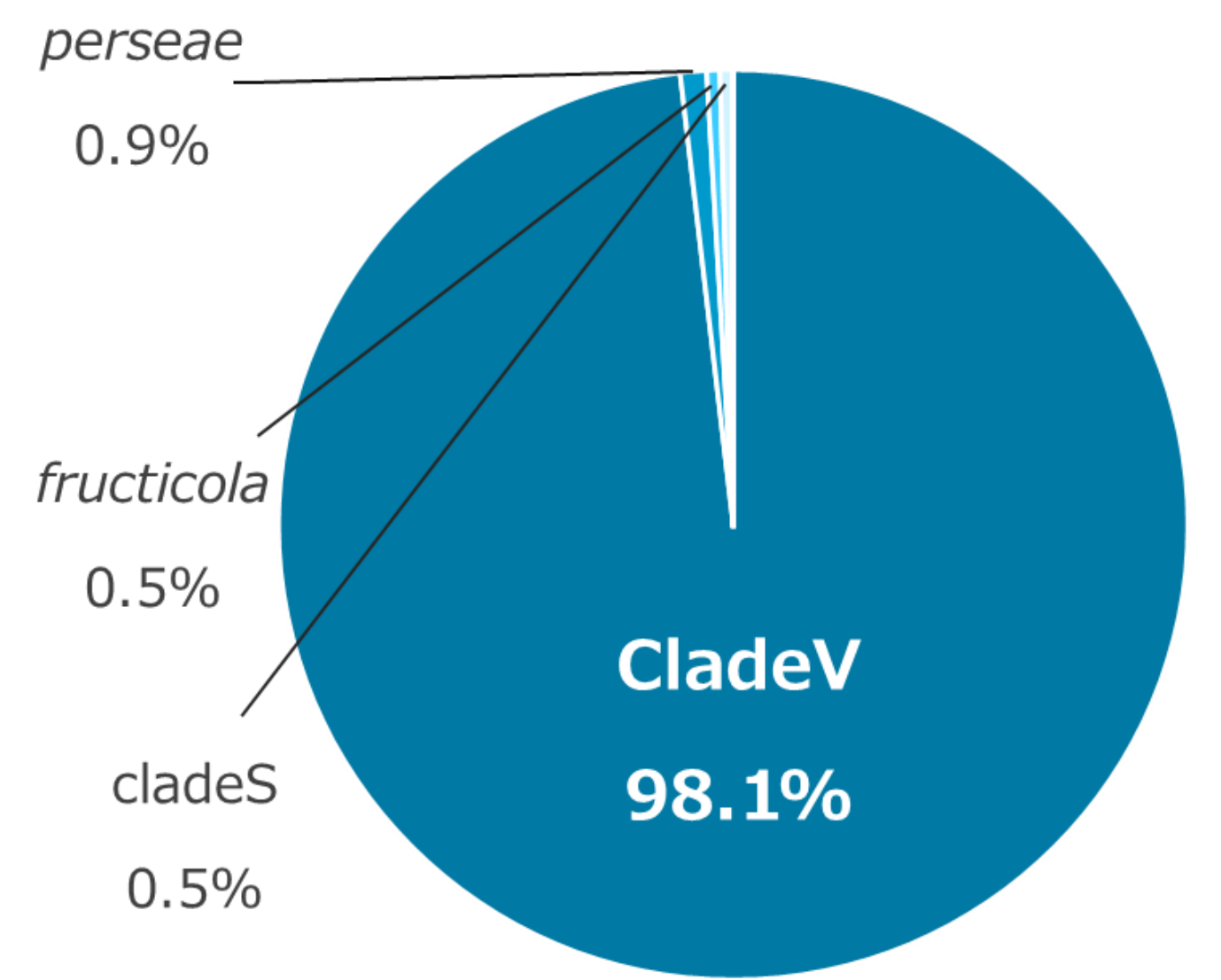


遺伝子を抽出し
塩基配列を分析



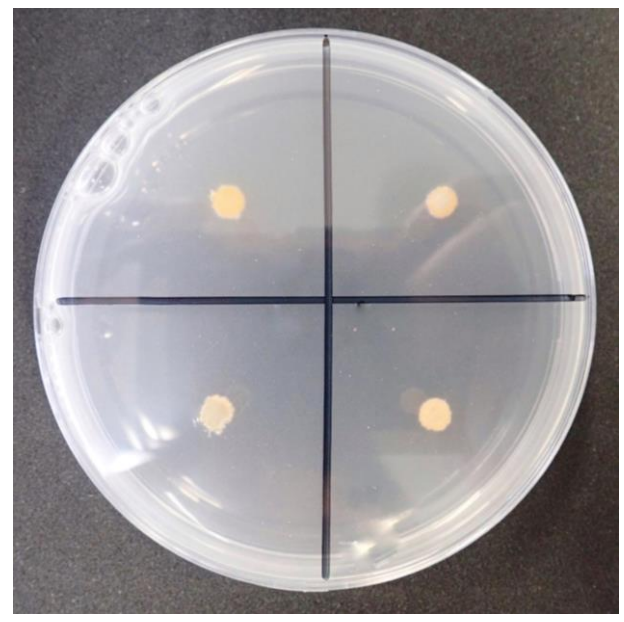
得られた塩基配列を
もとに菌種を同定

- 県下6市から採集した病原菌は全て *Colletotrichum gloeosporioides* 種複合体に属する菌種である
- 採集地域や品種にかかわらず、**CladeV**が98.1%を占める

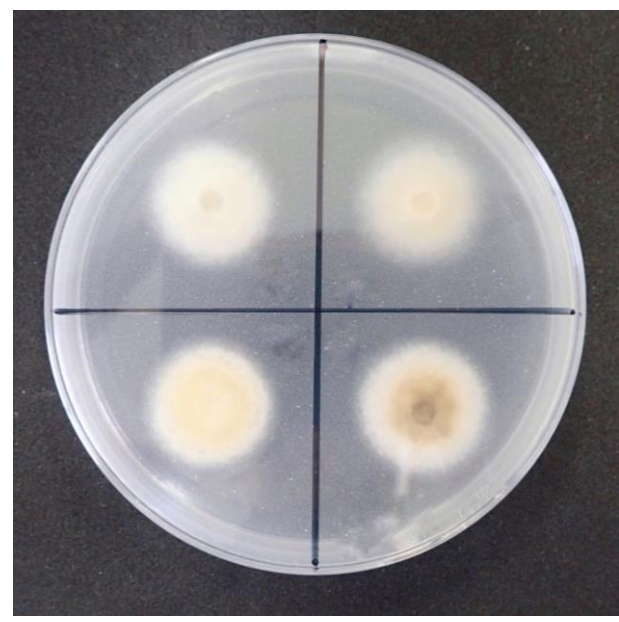


2 有効薬剤の選抜

各種薬剤を培地上に添加し、菌糸伸長により効果を確認



効果あり
(菌糸伸長抑制)



効果なし
(菌糸伸長)

- 新規系統殺菌剤**ミギワ20フロアブル**は、全ての菌株に対し高い効果を示した

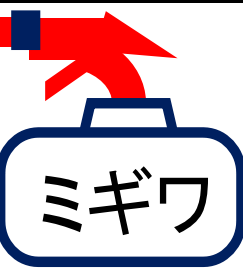
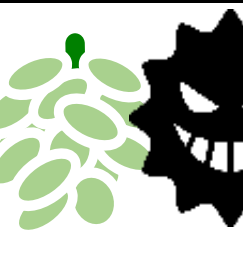
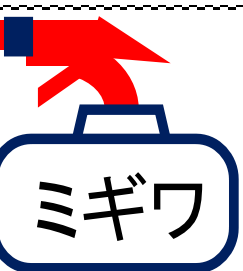


ミギワ20フロアブルの効果が
高い散布時期を検討する

※ 他病害で耐性菌が確認された系統のため、県では使用を控えている薬剤

供試薬剤	希釈倍率	供試菌株	菌糸伸長抑制菌株数	菌糸伸長菌株数
ベンレート水和剤	200 倍	81	80	1
アミスター10フロアブル※	1,000 倍	79	78	1
ストロビードライフロアブル※	2,000 倍	79	79	0
ファンタジスタ顆粒水和剤※	3,000 倍	79	79	0
フルーツセイバー	1,500 倍	81	68	13
カナメフロアブル	4,000 倍	80	1	79
ミギワ20フロアブル	2,000 倍	81	81	0

3 ミギワ20フロアブル散布時期の検討

散布時期	生育ステージ・処理月日				発病果粒数 着粒数 (平均)
	大豆大期 6/20	6/23	袋かけ直前 6/30	7/3	
I 大豆大期					9.8
II 袋かけ直前 (感染後)					34
III 袋かけ直前 (感染前)					1.4
					36.9
					2.6
					32.9

大豆大期～袋かけ頃にかけて、ミギワ20フロアブルの散布と病原菌の接種を
タイミングを変えて行い、散布時期の違いによる防除効果を比較

- **袋かけ直前**に散布すると感染時期にかかわらず、発病が少ない



I 大豆大期



II 袋かけ直前
(感染後)



III 袋かけ直前
(感染前)

今までブドウ晩腐病に困っていたけど、袋かけ直前に
ミギワ20フロアブルを散布すると発病が少なくて安心！



- 袋かけ直前にミギワ20フロアブルを散布すると晩腐病への防除効果が高い
- 果樹病害虫防除暦に反映し、多くの生産者が防除薬剤として活用している

